

スクランブル

群馬県 神流町商工会

土蔵活用で“芸術の森”

商店街にギャラリー13カ所

神流（かな）町商工会（黒沢啓治会長）は土蔵を利用した「蔵ぎゃらりー万（よろづ）」をオープンさせた。同時に、商店の一角などを利用した11カ所のミニギャラリーも開設し、すでに旧万場町商工会館にあるギャラリーと合わせて、商店街に13カ所のギャラリーが誕生した。

同商工会の町並み景観づくり事業部会（大谷彰部会長）が中心となり、会員商店などに眠っているアンティークな“遺産”に命を吹き込み、訪れた人を楽しんでもらうのがねらいだ。部会員を中心としたメンバーで運営委員会を設立し、商

店街活性化への起爆剤として期待している。

「蔵ぎゃらりー万」は、築80年の木造2階建てで、所有する大谷部会長が無償提供したもの。

会員20人ほどが、「蔵ぎゃらりー」の総仕上げを行い、ミニギャラリーにはそれぞれの屋号が入った看板も設置した。外壁や内部は、商工会メンバーらがボランティアで化粧直しをした。

内部には、昭和30年代後半から40年代初めにかけての少年雑誌やドーナツ型のレコード、菓子の景品など100点ほどが展示されており、中高年層には懐かしいものばかり。商工会では、13カ所のギャラリーの写真を載せたマップも作り、散策に役立ててもらう予定だ。

「展示物を見るだけでなく、地元の人たちの発表の場としても活用してほしい」と、大谷部長は夢を描いている。



富山県 小杉町商工会

散策は「鏝絵マップ」で

源造らの名作品16カ所をご案内

小杉（こすぎ）町商工会観光・サービス部会（鮎田勝暁部会長）は、同町に残された鏝（こて）絵16点の所在地を案内するガイドマップを作成した。会員の室江則光さんが作った鏝絵マップをもとに、町観光ガイドボランティア「つつじの会」などの協力で製作。11月7日に開かれた「小杉町産業フェア」で配布され、町の観光名所のPRに一役買った。産業フェア当日は、会場に鏝絵の写真パネルコーナーを設け、ガイドマップ1,000部が配られた。



鏝絵は、漆喰彫刻とも呼ばれ、近年芸術性の高さが知られるようになり、特に名工・竹内源造を中心とした「小杉左官」の技が注目されている。地図のほかにも、竹内源造記念館が所蔵する「龍」、永森神社や黒河神社の絵馬、十社大神の「神功皇后」図など9点の写真も掲載した。一般民家や神社の内部などにあつて、通常公開していない作品も含まれており、見学希望の際には同記念館に問い合わせしてほしいと同部会では話している。

鮎田部会長は「小杉町は観光地としてあまり知られていないので、活性化の目玉として、積極的に活用していきたい」と期待を語った。

茨城県 八郷町商工会

街に小中学生の絵を

商店街活性化に一役

八郷（やさと）町商工会の商工会館で、同町の小中学生が夏休みに書いた絵画の作品展が開かれた。昨年に続いて2回目で、同商工会の商業活性化協議会（菊池清代表）は、一昨年から同町柿岡商店街で“小中学生の絵を飾る”ギャラリーストリート事業を展開中で、今回の展示作品365点も、順次同商店街の店頭などに飾られた。



ギャラリーストリートは、同商店街のメイン通り約800mの区間。「人が歩く街角にしたい」と願って、両側合わせて約50カ所の店先や事業所で、それぞれ児童生徒の絵画作品を1点から数点、定期的に交換しながらイーゼル（画架）で展示した。

主催する同協議会の菊池代表によると、自分の絵が街角に飾られることが児童生徒の励みになり、関心も高まっている。また、「絵画展オープンに合わせ、商工会館で開いている親子パーティーを、子どもたちが楽しみにしている」という。

街なかの子どもたちの絵は、学校や地域、家庭での話題づくりにもなり、「柿岡地区だけでなく、人が多く集まる公共的な施設や郵便局などにも展示がされるよう、今後働きかけていきたい」と話している。

菊池代表は「商店街活性化の一環で始めた。子どもたちが自分や友達の絵を見に来る。そして次は家族が来る。親子で通りを歩く光景を少しずつ見かけられるようになった」と効果を語っている。

東京都 小平商工会

「小平市産業まつり」で全国の特産品を販売

流通ルート確保事業に協力

小平（こだいら）商工会（会長神石實）は、11月13日、14日の両日「第16回2004年小平市産業まつり」を開催した。

会場となった小平市役所周辺では、姉妹都市である北海道小平（おびら）町の農産物・海産物の販売や模擬店のほか、モーターショーや野菜宝船の展示などが行われ、多くの家族連れで賑わった。この産業まつりは、地域で最大の催しとして定着しており、およそ6万人が来場した。

会場には、「全国の特産品コーナー」を設け、全国連が実施している「特産品等流通ルート確保調査研究事業」に応

募のあった特産品から選定した13品目のPR・販売を行った。これらの特産品は、赤米を使用したせんべい（岡山）や稲から作ったお茶（新潟）など、東京では目に触れることのない商品が多いため、北海道小平町の特産品とともに多くの商品が売り切れとなった。



全国連では、地域の催しでの売れ筋商品の特徴や消費者の生の声など、貴重な情報が得られたため、これらを今後の特産品供給事業に活かし、より一層の特産品販路開拓・拡大に役立てることにしている。

福島県 東、泉崎村商工会 地域おこしの“秘けつ”は 講習会テーマは「おらがむらの宝さがし」

10月31日、東（ひがし）村商工会と泉崎（いずみざき）村商工会の経営講習会が東村文化センターで開かれた。同講習会には約150人が参加し、講師の日本ふるさと塾主宰の萩原茂裕さんの話に熱心に耳を傾けた。

萩原さんは、大分県の湯布院など全国各地の地域づくり基本計画の策定に携わった豊富な経験を持つことから、「おらがむらの宝探し」をテーマに、10年後、20年後のふるさとにつ

いて語った。
ワインを特産品として地域おこしをした村のことなど、数多くの実例を踏まえた話には説得力があった。

「地域の人口が少ないことを恥ずかしく思う風潮があるが、それはおかしい。住んでいる地域を誇りに思うべき」などの話に、一同聞き入っていた。



佐賀県 大町町商工会女性部 メッセージボードを設置 高齢者も気軽に入店を

大町（おおまち）町の商店約20店が、高齢者らを対象に店の新商品、サービスなどの特色を紹介する広告板を設置した。高齢者比率が高く、大型店出店の影響などで空洞化が進む商店街を活性化しようと、大町町商工会女性部（池田百合子部長）が、気軽に入れる個店づくり、高齢者に親しみやすい中心街を目指して企画したもの。



各店の入口に、絵画用のイーゼルにコルク板を載せたメッセージボードを1つずつ設置。店の特色、季節限定サービスなどを書き込んだ紙を貼り付ける。「しほりたて新酒入荷」「七五三は孫と一緒に写真撮影を」などの内容を、高齢者にも読みやすいような大きな文字で書いている。ゲームや歌、絵手紙交換など、町内の老人クラブとの交流会も計画しているという。

池田会長は、「何かを買わないと店から出にくい、というお客さんの感覚を変えたい。もっと気軽に遊びに来てもらいたい。その一歩と考えている」と話している。

香川県 さぬき市商工会女性部 「コミュニティータウンさぬき」 合併記念で住宅地図を製作・配布

さぬき市商工会女性部（石川千珠子部長）は、商工会合併を記念して、「コミュニティータウンさぬき」を製作した。市内全域を網羅した住宅地図で、自治会加入の全世帯、各事業所などに無料配布した。



地図製作に取り組む編集委員

2003年4月に旧5町の商工会が合併して現商工会が誕生したことから、地域住民の一体感を高めるねらいで、同年7月に編集作業に着手。

A4判、2色刷り全474頁。「津田の松原」や「さぬきワイナリー」などの観光地も紹介している。

編集委員は毎月1回の委員会で構成や使いやすさなどについて検討を重ね、このたび完成・配布となったもの。

石川部長は「同じ市でありながら、旧町の地理に関する情報が少なかった。ぜひこの地図を役立ててほしい」と語っている。

長崎県 小浜町商工会 コミュニティスペース「もくもく」 空き店舗を活用してオープン

小浜（おばま）町や小浜町商工会などが出資する第三セクター・小浜まちづくり株式会社（宅島寿雄社長）が、中央商店街の空き店舗を活用したコミュニティスペース「もくもく」をオープンした。同社は、高齢化社会や福祉に対応したまちづくりを進めており、今回の空きコミュニティスペースの開設もその一環ととらえている。



地域住民の憩いの場としてだけでなく、特産物販売による商店街の活性化や、障害者の福祉作業所としての役割も持たせ、社会福祉の向上もねらいとしている。

「もくもく」では、障害者らが菓子の紙箱製作や包装などの作業を行う場を提供するとともに、カルチャースクールの開催や、子どもたちを対象とした童話の読み聞かせ教室など、さまざまな事業を計画している。また、温泉入浴剤など、地域の特産品販売も予定しているという。

「障害者も健常者も変わりなく、多くの人がここを活用し、憩える場にしていきたい」と、同施設に常駐する監督員の吉原久司さんは話している。

山形県 山形県商工会青年部連合会 時代に勝つ！ 青年部員ら資質向上研修

県商工会青年部連合会などの資質向上研修が白鷹町で開かれ、置賜（おきたま）地域を中心に商工会青年部員ら約50人が参加した。

同研修会では、経済産業省産業構造課の鈴木英敬課長補佐が「時代に勝つ地域経営とブランド戦略」と題して基調講演を行った。構造改革特区を活用し、地域の実情に合った取り組みや、民間でしか気づかない効率化のアイデアの大切さを強調。「あきらめず、恥ずかしながら、面倒くさながら、素直に困っていることを提案してほしい」と話した。



パネルディスカッションでは、鈴木課長補佐と、すずき味噌店（白鷹町）の鈴木徳則専務、サンセットスタジオ（山形市）の早坂実代表の3人が「失敗したら、またがんばればいい。とりえず一歩を踏み出すことが大事だ」「人との幅広いつながりから新たなアイデアが生まれる」と述べるなど、新たなビジネスチャンスの可能性を探ってさまざまな意見が出された。